

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100841		
法人名	社会福祉法人 清流共生会		
事業所名	グループホームもえぎ		
所在地	大分市大字猪野729番地1		
自己評価作成日	2022年1月24日	評価結果市町村受理日	令和4年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、一人ひとりの能力に応じて出来るだけ自立した生活ができるように、日常の家事は職員がサポートしながら継続していただいている。食事はホール内に設置したキッチンで三食手作りしているため、音・食べ物の香りを感じることができ、食事作りの手伝いをさせていただいたりご自宅にいるような安心感を感じていただくことができている。
 コロナ禍での外出が難しいため、室内にいて季節を感じていただけるような壁画を利用者様と職員とで作成している。
 また、同敷地内に8事業所設置している為、連携をとりながら、その方にとってより良いケアを行う事ができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 敷地内に8事業所が併設されているので職員の研修や情報交換、医療面など充実しており、利用者にとってよりよいケアの提供ができている。
- 2) 食事は三食とも事業所内の厨房で作っているため食事の用意や片付けなど、利用者もできることを一緒に行っている。調理の音や香りで五感を刺激され食事が楽しいものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもとで、可能な限り自立した生活ができることを理念とし、家事などの手伝いをしながら今までの生活を継続していただけるように支援している。	母体法人の理念をもとに事業所独自の理念を掲げ、毎朝朝礼時に唱和している。月1回の職員会議時に理念についてのやりづらいことなどを話し合い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が難しい年であったため、運営推進会議や手紙にての地域の方へ活動報告、活動予定をお知らせしている。	地域との交流は直接できなかったが、認知症についての相談、入居相談、見学希望などを口頭で説明している。また、活動の詳細や現状なども手紙でお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の問い合わせや申し込みに来られた方の相談にのったり、認知症の人の支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は11月に1度で、その回以外は中止となったため、活動報告、活動予定、不適合サービス等を郵送にてお知らせした。また、ご意見や質問を受けた場合は職員間で話し合いサービス向上に繋げている。	今年度は1度しか運営推進会議は開催できなかったが、資料を作成して送付し、意見や質問については職員間で検討し、サービス向上につなげるとともに市へも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催は11月に1度だったが参加していただき、活動報告、活動予定、不適合サービスの報告を行った。その際、取り組みやケアについてアドバイザーをいただいた。	運営推進会議には市の職員も参加してアドバイスをいただいている。事業所の取り組みについて積極的につたえながら、コロナ禍の対応についてアドバイスをもらうなど連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で研修を行い、研修後報告書を提出し、職員全体が正しく理解できている。身体拘束しないケアに取り組んでいる。	法人内で年2回研修を実施している。研修報告書を提出することで正しく理解できている。事業所内でも事例を用いて勉強会を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で研修を行い虐待について職員全員が理解できるように努めている。声掛けや、言葉遣いについても職員間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学び、必要とされる場合制度について利用者様、ご家族に説明を行い活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は出来るだけわかりやすく丁寧に説明するよう心がけている。ご本人だけでなく、ご家族の不安や疑問点も多いため、その都度的確に説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が中止となり、ご家族へのアンケートを実施し、ご意見や要望をお受けし職員間で話し合いを行った。運営推進会議は1度の開催となり中止の際は運営推進会議の構成員には書面にてお知らせをした。	家族会が中止になったため、家族アンケートを実施後、職員間で話し合いを行った。電話で近況報告をしたり家族の意見を伺ったり、面会時にタブレットで利用者の動画を見ていただいたりしながら交流を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、意見や要望を聞いて職員で話し合い取り組んでいる。意見や要望は前向きに検討し日常の業務に反映させている。	毎月の職員会議で利用者支援についての話し合いを行い、出された意見や要望は前向きに検討し運営に反映させている。タブレット端末を使うことで事業所内の記録や伝達がスムーズになり内容も充実し職員の超過勤務もなくなった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、自己目標設定をしてそれに伴う評価をすることで各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研修はズームで行われている。参加できない職員も後で視聴することができ全職員が研修することが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム管理者と話し合う場を設け、情報の共有や相談を行い問題解決に繋げている。また、法人内の他事業所の職員と定期的に会議を行い、意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるように、不安や困難事項を早期に話し合い対応を共有することで、利用者様のニーズを聞き入れ信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や入所手続き時ご家族に困っていることや不安に思われることをお聞きしている。入所されるまで連絡を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、ご本人・ご家族の意見も聞き入れながらより良いサービスが受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、できる事はやって頂くようにしています。各利用者様に見合った役割分担をし、できない事はサポートし共に暮らしている家族のような関係で、見守りながら生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限はあるものの体調不良がなければ、窓越し面会をして頂いている。来苑時や電話連絡時、必ず情報交換しコミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃の話しや、思い出話は傾聴しています。コロナ禍であり自由に出来ない事もありますが、できるだけ安全を確認したうえ窓越しでの面会を設けたり、電話連絡等で関係が途切れないように努めている。	コロナ禍により今までのような交流ができない中、思い出話などをしっかり傾聴するよう心がけている。窓越しの面会や電話などによる交流や、その人らしい年賀状の絵や日常生活の写真などを送付するなど家族との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみを一緒にしていただくなど、利用者同士が関われる環境を多く見つけ、一緒に過ごしていただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の移動先への本人の情報提供を行い、今までと変わらず安心して暮らしていただけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望・意向は訴えがあった場合だけでなく、仕草や雰囲気による場合は時間をかけてゆっくりと耳を傾けるようにしている。その思いをどのようにしたら実現できるのかを話し合い情報共有して対応している。	ケアマネジャーがアセスメントをとっている。日常の関わりで声かけをしながら表情などの変化により判断することが多い。担当職員からの情報は全職員で共有しており、職員の意見を計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等の情報を収集し、把握している。入居後に新たな情報があるため、随時カンファレンス行い対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況を介護記録に残し、職員間で共有している。気になる事がある場合は話し合いをもち、一人ひとりの生活が向上できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見や希望をアセスメントし職員間で話し合い計画書を作成している。また、記録シートに毎日チェックを行い、できなかった事な対しては都度見直しを行っている。	担当職員会議をもとに計画を作成している。計画は毎日の支援計画に記載されており、毎月モニタリングおよび評価を行い、6か月ごとの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録入力、業務日誌に記入し情報共有している。ケアプランの見直しに活かされ、ケアの統一が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でご家族の協力や外出は厳しいが、状況を把握し医療や他事業所と連携をとりより良いサービスが提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議中止の場合は書面にて民生委員や地域包括支援センターへ活動報告を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望される医療機関を受診して頂いている。月に2回の訪問診療時は、ご本人様と一緒にDrに状態を伝えている。受診の際は状態報告を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望する医療機関となっている。受診時は家族対応となっているがコロナ禍の中、家族の希望で訪問診療を希望し協力医に変更した利用者もいる。月2回の訪問診療のほか、体調不良時には随時往診も受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきを伝え訪問看護師との連携ができ、状況の変化や疑問にも気軽に相談できるような関係を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療関係者との情報共有ができるように連絡をとり、安心して治療ができるよう、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した場合の方針について説明を行っている。ご本人、ご家族と十分に話し合い、今後の方針を考え、医療機関や他事業所と連携を図りながら支援していけるように取り組んでいる。	利用開始時に重度化及び看取りの方針について説明を行っている。重度化の場合は家族、医師と話し合い特養へ住み替えをしており、事業所での看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行いすべての職員が対応できるように取り組んでいる。また、緊急時対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修を行い災害についての知識を学んでいる。定期的な訓練を行うことで確実な避難誘導ができるように備えている。	あらゆる災害を想定して年2回、法人全体での合同訓練及び研修を行っている。また、事業所独自で年3回、日中・夜間を想定して利用者と一緒に避難訓練を実施している。地下に3日分の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で接遇の研修を行い基本的な心構えを学んでいる。人格を尊重した言葉かけで利用者様が不快な気持ちを持つことなく過ごせるように配慮している。	年に1度、法人全体で接遇研修を実施している。また、隣接の小規模多機能と合同で研修会をしており、特に自分たちが嫌だと思うことは利用者にはしないということを徹底している。職員間で気づいたら、その都度注意し、言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活に多く関わりを持ち、ご利用者様の言葉に耳を傾け思いや希望をくみ取れるように努めている。気になる事は職員間で共有し環境を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれのペースを把握することで、一人ひとりに合わせた個別対応をするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、服装など身だしなみについては個別対応をし乱れがないように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム内で手作りし、温かい食事をお出ししている。準備や片付けを手伝っていただいている。	小規模多機能と協力して3食とも手作りの食事が作られている。準備や片付けも利用者と一緒にいき、調理の音や匂いで五感が刺激され、食事が楽しいものになっている。また、おやつも利用者が希望するものを手作りするときもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて提供する量を調整し、食事量・水分量の把握をしている。個別で介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1か月に1度歯科衛生士による口腔ケア研修を受けスキルアップを行っている。状態や本人に合わせた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し個別に対応している。また、可能な限りトイレにて排泄していただけるよう取り組んでいる。	排泄パターンを把握して、個々に合わせたトイレでの支援ができています。現在はおむつを使用している利用者はおらず失禁していた方も自発的にトイレに行けるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を記録して排便の把握を行っている。体操・腹部マッサージを行ったり、水分摂取量の把握をし、自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴が基本だが、出来るだけ無理強いくことなく、ご本人の希望に合わせてるようにしている。羞恥心や恐怖心のないよう最初から最後まで1人の職員が対応するようにしている。	週2回の入浴を基本にしているが、希望があれば随時入浴可能である。拒否する人には決して無理強いをせず声のかけ方を変えたり、介護者や入浴日を変えたりしながら入浴が楽しいものになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態を把握し、その方に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の情報をいつでも確認できるようにしている。薬の変更や、状態変化あった場合は情報共有出来るようにし、かかりつけ医に連絡するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに好まれる家事や活動を一緒に探し、洗濯たたみ、洗濯物干しをする中で役割を持って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場に1度ドライブに行ったが、コロナ禍でなかなか実施できていない。	最近はドライブなどの外出ができないが、天気の良い日はデッキで植木鉢や敷地内の花を眺めたり、外気に触れる機会を折に触れ作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持がご希望の場合は、ご本人の状態を考慮し、ご家族に相談、ご理解いただいた上考えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、電話の取次ぎや面会の対応を行っている。ご家族宛の年賀状を書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁画の飾りつけをか変え、季節を感じていただけるようにしている。コロナ禍の中、定期的に換気を行っている。テーブルや椅子の配置を考え、音・匂い・明るさに気を配り快適に過ごせるようにしている。	気の合った人同士が同じテーブルで過ごせるよう、テーブルや椅子の配置の工夫をしている。壁面の飾りつけも季節感があり、厨房からの調理の音や匂いなども五感が刺激され家庭的な雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる時間が多く、ソファーに座り仲の良い方と話をされたり、テレビを見たりされ、いつでもゆっくり座ってくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様を使い慣れた物を持ち込まれている。家族写真や手紙等を飾っている。	使い慣れた家具などが持ち込まれ、それぞれの居室が個性的な設えになっている。自室でトイレを利用しやすいように家具やベッドの配置などで動線の工夫がされ、個々の安全が図られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者様一人ひとりの状態に合わせて設備の設置をしている。		